

船室について

- 全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付きとなる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのカーン稼利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機能付きトイレを完備しています。
- C1、G、L、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機能付きトイレのオプション申込が可能です（有料）。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのソファは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4クラスは船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を解除する場合、船室指定取消料として旅行代金の5%を申し受けます。90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます）。
- お得な年齢割引もご利用ください！大人1名につき未就学児1名無料（詳しくは弊社までお問い合わせください）。
- 相部屋申し込みのお客様はシャワー、トイレ、ロッカー、その他の設備は同室者と共有です。
- セミシングルタイプ、フレンドリータイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供するコンセプトのメットタイプです。
- 旅行開始時13歳未満（中学生を除く）のお子様連れでの相部屋申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です（有料）。ベッド下のスペースは同室者との共有です。

ビザ（査証）取得について

- クルーズに必要なビザ（査証）は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。（有料）
- 参加いただくオプションツアーによっては、ビザ取得のための追加代金や追加書類をご提出いただく場合があります。
- 本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救護者費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人の負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならない場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より下記の通り危険情報が発出されておりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しましたので本旅行を執行いたします。

「レベル1」：十分注意してください
香港、ポートエリザベス、ケープタウン、ウォルズベイ、リオデジャネイロ、モンテビデオ、ブエノスアイレス、プンタアレナス、バルパライソ、カヤオ、イースター島

尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

旅行代金一覧（単位：円）

船室クラス	バルコニー/窓	フロア	ベア (2人部屋)	相部屋可	シングル (1人部屋)	セミシングル (2人相部屋)	フレンドリー (3～4人相部屋)
オーナーズスイート		9-10	A1	15,050,000	—	—	—
ベントハウススイート		8	A2	11,400,000	—	—	—
プレミアムスイート		9-10	A3	10,880,000	—	—	—
スイート	バルコニー付	8	A4	10,200,000	—	—	—
ジュニアスイート		10	B	9,350,000	—	—	—
バルコニーⅠ		10-12	C1	6,460,000	○	I	12,274,000
バルコニーⅡ		9	C2	6,350,000	○	J	12,065,000
アウトサイドワイド		9-11	D1	5,490,000	○	—	—
アウトサイドビュー	窓あり	8	D2	5,380,000	○	—	—
アウトサイドⅠ		8	E	5,150,000	○	K	9,270,000
アウトサイドⅡ		5-6	F	4,950,000	○	L	8,910,000
スタンダードインサイドⅠ		8-11	G	3,890,000	○	M	7,002,000
スタンダードインサイドⅡ	窓なし	5-6	H	3,760,000	○	N	6,768,000

※フレンドリータイプは、出発時75歳未満のお客様限定です

旅行条件（要旨）

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約

本旅行はNGOピースボートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス（以下「当社」といいます）が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」といいます）を締結することとなります。

2. 旅行のお申し込み

当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額（別紙参照）を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの

①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊（ご請求書に記載された船室クラス）、船内イベント（一部有料あり）の代金 ③明示した食事回数料 ④船舶による手荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの（上記3項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を以下に列挙いたします。）

①オプションツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡航手続費用（ビザ代・渡航手続代行手数料・予防接種料金等） ④船内のチップ ⑤ポートチャージ（港湾施設使用料等） ⑥国際観光旅客税 ⑦海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑧超過手荷物料金 ⑨ご自宅から発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑩船舶のフェュエル（燃油）サーチャージ ⑪船舶に課せられるEU-ETS・FuelEU Maritime・GPI 等、環境規制対応費（環境対応サーチャージ） ⑫訪問する国や自治体等により課される環境保全税・観光税・オーパーツリズム対策税

5. 旅行代金のお支払い

①旅行開始日の前日から起算してさかのぼって60日目に当たる日以降の当社の定める日までには申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用客船の買切代金の一部に使用いたします。

6. 特別補償

当社はお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじめ定める額の補償金および見舞金を支払います。フリートラベルの期間は、特別補償規程第2条2項に定める無手配日となります。

7. 取消料

お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

	取消日	取消料
	91日前まで	無料
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	90日前以降60日前まで	旅行代金の5%
	59日前以降29日前まで	旅行代金の50%
	28日前以降15日前まで	旅行代金の80%
	14日前以降	旅行代金の100%

本旅行の使用客船は買切船舶によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代金の払い戻しはありません。

8. その他

①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に定める事項は当社旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によりします。なお、当社約款は当社ウェブサイトよりご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2026年7月22日を基準としています。

別途諸費用（単位：円）

※2026年7月22日現在の金額です

チップ合計	183,120
ポートチャージ合計	58,520
ビザ取得代金合計	13,500
国際観光旅客税	3,000

- 最少催行人員：1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝107回、昼106回、夕107回
- 医師、看護士が乗船します
- 使用客船：パシフィック・ワールド号（総トン数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：2,419名/運航会社：シーボークコーポレーションリミテッドイギリス）

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス（観光庁長官登録旅行業 第617号）

T169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japanrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員

振込口座 口座名義はいずれも (株)ジャパングレイス	三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1211859	三井住友銀行 高田馬場支店 普通 9103064	みずほ銀行 高田馬場支店 普通 1991082
----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

Coordinated by ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-101
TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562 www.peaceboat.org

PHOTO: PEACEBOAT、片岡和志、松田咲香、水本俊也、吉田タスケ、ソーワルグッド株式会社、AdobeStock、SebaSalgadoS、shutterstock.com、Phil Whitehouse / Flickr



2030年までに日本のクルーズ人口100万人の達成に向けたキャンペーンに参加しています。



【プライバシーポリシー】
株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取り扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。
https://www.pbcruise.jp/privacy/



PEACE BOAT VOYAGE 134

Dec 2029

ANTARCTICA, AFRICA & SOUTH AMERICA

ドラマチックな地球大紀行

南極航路 世界一周クルーズ

2029年12月出航

南極航路 アフリカ&南米コース

横浜発着109日間

2029.12.13(木) - 2030.3.31(日)

Yokohama

Hong Kong

Singapore

Port Louis

Port Elizabeth

Cape Town

Walvis Bay

Rio de Janeiro

Montevideo

Buenos Aires

Puerto Madryn

Ushuaia

Punta Arenas

Valparaiso

Callao

Easter Island

Papeete

Apia



手つかずの自然と未知の絶景へ

地球のスケールを体感する

— 南極航路 世界一周クルーズ —

この度発表いたしました「地球一周の船旅Voyage134」は、ピースボートクルーズの中でも特別な、南半球をめぐる地球一周の船旅です。

1994年に戦後の日本ではじめてこの南回り航路での旅を実施して以来、北半球をめぐる旅とはひと味違うダイナミックな魅力で、多くのファンを魅了してきました。さらに今クルーズは、かつて「未知の南方大陸」とよばれ、1820年によりやうく人類の前に姿を現した南極へも船を進めます。南極へ行くクルーズは世界中に数あれど、世界一周の旅行中に南極へも訪れることができるのは、ピースボートクルーズだけ。南極条約によって「誰のものでもない」と全人類共通の財産として守られているこの地をめぐるために、日本の旅行会社で唯一 IAATO（国際南極旅行業協会）にも加盟し、環境に最大限の配慮をしながら南極遊覧へと挑む壮大な旅です。

野生動物が闊歩する雄大な自然を誇るアフリカ大陸、多様な文化と絶景に出会う南米大陸、そして紺碧の海に浮かぶ南太平洋の島々と、南半球を旅する魅力が詰まった世界一周クルーズへのご乗船をお待ちしています。



地球最後の秘境、南極へ

PEACE BOAT VOYAGE 134

COVER PHOTO

1		
2	3	
4		
5	6	7
8		9

- 1 南極遊覧
- 2 リオデジャネイロ (ブラジル)
- 3 ポートルイス (モーリシャス)
- 4 イグアスの滝 (アルゼンチン・ブラジル)
- 5 ポートエリザベス (南アフリカ)
- 6 プエノスアイレス (アルゼンチン)
- 7 パルデス半島 (アルゼンチン)
- 8 ケープタウン (南アフリカ)
- 9 南米最古のカフェ (アルゼンチン)

本パンフレット掲載の写真は、お客様にピースボートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船の写真も含んでおります。また、全て旅のイメージです。

01 THE ULTIMATE JOURNEY ANTARCTICA

P4-9

一世一代の行先 南極

02 SOUTH AMERICA

P10-17

イグアスの滝 / ビーチカルチャー / 世界遺産

03 HOPE IN AFRICA

P18-21

美しきアフリカで出会う希望

04 VOYAGE TALK

P22

関野吉晴 (探検家・人類学者・外科医)

05 DESTINATIONS & PORTS

P24-27

世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

南極

一世一代の行先



どこへでも旅ができるようになった現代にあっても、

南極は今なお“地球最後の秘境”として人びとをひきつけます。

ピースポートクルーズは、世界で唯一、世界一周の航海の中で南極を訪れる旅を実現しています。

2025年1月、その南極遊覧を成功へと導いたのは、

この地を知り尽くすエキスパート、スーザン・エイディさんでした。

彼女が語る「観光を超えた体験」の物語を、ここにお届けします。



スーザン・エイディ
Susan Adie

南極探査の第一人者。南極エクスペディションリーダーとして、1995年から国際組織IAATO（国際南極旅行業協会）とともに、南極を訪れる人びとの行動指針やガイドラインの策定に携わっている。長年にわたる南極探査は高く評価され、その功績から南極半島の西側には彼女の名前を冠した岬がある。2025年1月のピースポート世界一周クルーズにおける南極訪問時には、ナビゲーターとしてバシフィック・ワールド号に乗船。

To the Land That Belongs to No Nation

地球上で、どこの国でもない場所へ

南極はどこの国にも属さない、世界でもっとも厳格に保護された場所のひとつです。1991年に採択された南極条約と環境保護に関する議定書によって、南極では軍事利用や資源開発が禁じられ、環境保全が最優先事項となります。さらに、南極を訪問するすべての旅行会社と乗客は、厳格なルールやガイドラインを遵守する義務があり、ピースポートの南極航路もこうした国際的な基準を満たした上で実施されています。

ピースポートクルーズは、IAATO（国際南極旅行業協会）に加盟しています。「安全かつ環境に配慮した南極への私的な旅行の実践を提唱し、推進する」ことを目的とするこの組織に加盟して訪れるということは、参加される方がすでに「保護の担い手」としての第一歩を踏み出しているといえるでしょう。南極への訪問は、船長はもちろん、南極航路のベテランであるアイスマスター

や、私のようなエクスペディションリーダーを含めた、チーム体制で実施されます。皆さんの安全が第一ですが、「南極を訪問者から守ること」もまた、私たちの使命です。

ご存知の通り、南極は世界でもっとも繊細な生態系をもつ場所のひとつです。そのため、厳格な環境保護ルールが存在します。たとえば、外部からウイルスを持ち込まないために、南極遊覧中の船内では卵や鶏肉料理の提供が控えられます。また、夜間には船外へ光が漏れるのを防ぐために、船内のカーテンを締め切ります。こうした細やかな配慮と乗船者の協力によって、客船での遊覧は成功へと導かれるのです。一見すると小さなことのように思える取り組みも、手つかずの自然を守るうえで欠かせない要素であり、南極はその何倍もの魅力をもって私たちを迎えてくれるのです。

Antarctica : Where We Meet the Future of Earth

南極で地球の未来と出会う

南極には国家としての“大使”はいません。しかし、その美しさや脆弱性を伝えていく「大使」が必要だと感じています。地球上で南極を訪れた経験を持つ人は限られており、また個人の人生の中でも、滅多にない貴重な体験のひとつとなるでしょう。その類まれな経験を地球規模で生かすべく、IAATO（国際南極旅行業協会）では「南極アンバサダー（大使）制度」を設けています。

南極アンバサダーは、南極で得た感動や芽生えた思いを広く伝え、環境保全のために一人ひとりが具体的な行動を起こすことを目的としています。「水の使用量を減らす」「プラスチック製品の使用を控える」「ごみを減らす」など、自身ができることを今後も続けていくと宣言した乗船者に、IAATO公式アンバサダー証明書が授与されます。2025年1月のピースボートクルーズでの南極遊覧でも実施しましたが、ピースボートクルーズ参加者の関心と熱意の高さに驚かされました。さらに、証明書を手にした方々の中には、航海中に自主的に勉強会やディスカッションを企画し、仲間同士で環境問題について考える場を生み出す姿もありました。



IAATO

International Association of
Antarctica Tour Operators
国際南極旅行業協会

<https://iaato.org>

自然環境の保護と安全な旅行を促進するため、南極への民間旅行を管理し、南極条約システムと協力して活動しています。メンバー企業は、厳格なガイドラインを遵守し、持続可能な南極観光をめざしています。

世界には100社を超える南極クルーズの運航会社がありますが、ピースボートクルーズの参加者の「学ぶ姿勢」は特筆すべきものです。南極遊覧には私を含め、気候学、人類の南極探検史、野生動物などを研究する専門家や研究者が同行します。ピースボートクルーズでは、船が南極区間に入りレクチャーが始まると、講演会場はたちまち満席に。さらに、すべてのレクチャーに真剣に耳を傾けている乗客の姿は熱意にあふれ、とても印象的でした。また、言語面でのサポートにも素晴らしいものがありました。他社では、世界共通語である英語とプラス1言語の通訳が標準である中、ピースボートクルーズでは英語・日本語・中文・韓国語という4言語でレクチャーが行われ、国籍を問わず知識を共有できる環境が整えられていました。多国籍、そして多様な文化的背景をもつ人びとが乗船するピースボートならではの対応であり、一緒に乗船した専門家たちも同様に称賛していました。こうした参加者の反応や船内の対応こそが、ピースボートクルーズが唯一無二の存在として世界から高く評価されている理由だと実感しました。

ピースボートクルーズで南極を旅する皆さんと、再び一緒にできる日を心待ちにしています。私は30年以上の歳月を極地探検にささげ、地球で最も神秘的な場所のひとつ「南極」を生涯をかけて走破してきました。南極を皆さんとめぐるとき、私は「この旅の目的は単に“どこかへ行くこと”ではないのか」と感じます。知識と感動、経験をもとに「自分に何ができるか」を真剣に考え、旅の最終日には環境保護のための具体的な目標を掲げて出航地へと戻っていく—そうした観光を超えた“未来のための旅”こそ、いま私たちに必要なものだと思信しています。



①南極遊覧の見どころのひとつ、「パラダイス湾」。氷河と雪山が静かな湾に映し出され、その幻想的な美しさは多くの人を惹きつけます。②氷と海が織りなす美しい景色の中、スーザンさんは操舵室で船をナビゲート。氷の世界に挑む真剣な表情と、ふとこぼれる柔らかな笑顔が、私たちを未知の世界へと導いてくれます。③壮大な山々と美しい氷の世界が広がる南極。澄み渡る空気の中、パシフィック・ワールド号はゆっくりと進んでいきます。

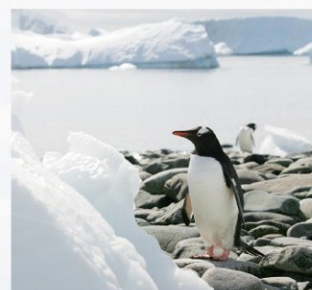


①冷たい南極の風が頬をかすめる中、巨大な氷山が姿を現すと、どよめきと歓声が起こります。その圧倒的なスケールに、誰もが息をのみます。②目の前に広がる果てしない氷の大地。澄み渡る空と透き通る空気に抱かれ、非日常の景色が心に深い感動を刻みます。③自身の船室のバルコニーから、雄大な景色を眺める贅沢なひととき。④遊覧中、見どころに差し掛かると操舵室から船内アナウンスが入ります。その合図に導かれ、デッキへ。静寂の氷海に広がる神秘的な光景を前に、胸の鼓動が高鳴ります。⑤地球が創り出した青と白の絶景を目に焼き付けようと、遊覧中は多くの人がデッキでの時間を楽しまます。⑥白い氷の上を歩くペンギンたち。小さな体で大海原を駆け回る姿に、自然のたくましさを感じます。

オーバークランドツアー Overland Tour

南極の大地を踏みしめる

雪と氷に覆われた大地、氷山の芸術的な造形、そして凛と澄み切った空気を全身で受け止めることができる特別な上陸ツアーです。地球の果てで、日々、昨日の感動を超えていくような光景と出会う体験は、一生の宝物になるでしょう。



SDGs ユースプログラム

ピースボートクルーズは「持続可能な開発目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として、世界各地の港でその重要性を発信しています。世界一周クルーズの各区間でSDGsに取り組む若手のリーダーたちを招待し、船内で海洋汚染や気候変動などの課題について意見交換などを行っています。南極は「平和と科学のための大陸」とよばれ、世界が丸となり保護し、また気候変動を研究するうえで重要な場所です。この地に次世代のリーダーたちが訪れることは、重要な意味を持ちます。



南極関連NGOの共催により、東京・広島でイベントを開催

2026年5月、第48回南極条約協議国会議(ATCM48)が広島市で開催されたことに合わせて、南極・南大洋連合(ASOC)※やアジェンダ・アンタルティカ、FoEジャパン、ピースボートの共催で、南極・環境保護、そして世界平和のつながりに焦点を当てたイベントが東京と広島で開催されました。ピースボートクルーズで2025年に南極遊覧を経験し「南極大使」となった方も登壇し、「平和と科学」に捧げられた無二の大陸・南極の現在の課題と、実際に訪問することの意義を語りました。

※南極・南大洋連合(ASOC)
南極大陸およびそれを取り巻く南極海の環境の保護を目的に、世界の30以上のNGOから成るネットワークNGO



地球の鼓動を肌で聴く 情熱と絶景が待つ 南米大陸へ

情熱の国ブラジルのリオデジャネイロから、世界の最果てとよばれるウシュアイアまで。広大な南米大陸を北から南へとダイナミックに縦断する大航海は、想像を超える感動の連続です。轟音とともに白煙を上げるイグアスの大滝、ブエノスアイレスに響くタンゴの音色、バルパライソやリマの情緒あふれる街並み。独自の歴史が育んだ多彩な文化と、圧倒的な大自然が織りなす、一生ものの出会いがあなたを待っています。

イグアスの滝

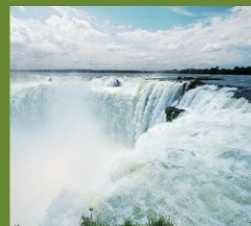
Iguazu Falls

南米を代表する絶景のひとつ、イグアスの滝。最大の見どころは、その圧倒的なスケール感と大自然への「没入感」です。轟音とともに流れ落ちる水しぶき、瑞々しい熱帯雨林の緑、そして鮮やかに架かる大小さまざまな虹の風景は、まさに壮観。滝の懷に包み込まれ、地球の息吹を五感で受けとる感動が胸を揺さぶります。ブラジルとアルゼンチンの両側から、それぞれに異なるダイナミックな美しさを堪能でき、世界遺産の国立公園に指定された深い森には、色鮮やかな鳥や蝶、野生の動物たちも姿を現します。

※オーバーランドツアー



※オーバーランドツアー



言葉を失うほどの迫力、
滝の最深部へ
(アルゼンチン側)

濁流が凄まじい爆音とともに吸い込まれていく「悪魔の喉笛」。展望デッキの目の前で渦巻く圧倒的な水量と水煙は、まさに圧巻。自然の猛威と神秘を体感できる贅沢なスポットです。



爽快な風を浴びて進む、
エコロジカルトロッコ

環境に配慮した列車に乗って、緑豊かなジャングルの中へ。「悪魔の喉笛」に向かう道中さえも、これから出会う絶景への期待に胸が高鳴る特別なアトラクションになります。



パノラマから滝のカーテン
へ迫る、水上の特等席
(ブラジル側)

水上にせり出す栈橋へ。大迫力の滝のカーテンと、全身で浴びるマイナスイオンは、ブラジル側ならではの醍醐味。地球のエネルギーを肌で感じる、至高の瞬間が待っています。



世界遺産が抱く、
豊かな生態系の宝庫

ブラジル・アルゼンチンの両国に広がる世界遺産の国立公園は、豊かな生態系の宝庫。希少な野生動物が暮らす深い森では、トレイルを進むごとに色鮮やかな鳥や蝶にも出会えます。



Beach Culture in Brasil

青い海と白い砂浜、そして弾ける陽気なリズム。リオデジャネイロのビーチには、世界を魅了するカルチャーが詰まっています。日本でも人気のサンダル・Havaianas（ハワイアナス）や音楽も、ここから生まれたもの。市民の日常に溶け込む美しいビーチ文化が、ラテンの奥深い魅力とともに訪れる人を迎えてくれます。



世界が恋するコパカバーナ

弓なりに続く全長約4kmの海岸線は、リオを象徴するスポットであり、旅人の誰もが憧れる楽園。波の模様をイメージした特徴的な遊歩道のモザイクは、歩くだけで心躍るモダンアートのようなです。



ガロタ・ジ・イバネマ

ボサノヴァ名曲『イバネマの娘』が誕生した伝説のバー。店先を通る少女にインスピレーションを得て訪れたという物語は、今もボサノヴァの優しい調べとともに、世界中で愛され語り継がれています。



砂浜のスタジアム

目の前に広がる砂浜は、市民にとっての広大なスタジアム。サッカーとバレーを融合させた「フッチボレー」など、誰もが自然体でスポーツに汗を流す光景は、まさにリオらしい日常のワンシーンです。



サンバが響く夜

夜になれば、街角のバーからは躍動感あふれるサンバの生演奏が聞こえてきます。冷えたドリンクを片手に、ステップや歌で人びとが一体になるグルーブ感が、旅の夜を熱く彩ります。



アサイースタンド

アマゾンが育んだブラジルのスーパーフード、アサイー。街角のスタンドで味わう濃厚なアサイーボウルは、ビーチで火照った体を心地よく冷ましてくれる、毎日の暮らしに欠かせない一品です。



Havaianas（ハワイアナス）

世界中で愛されるビーチサンダル「ハワイアナス」のルーツは、じつは日本の草履がヒントになって生まれたもの。遠く離れた両国の文化が融合した、街でも砂浜でも手放せない夏の定番です。

美味と名所をめぐる、 胸高鳴る南米体験ガイド

大自然の先には、私たちの好奇心を刺激するたくさんの楽しみが待っています。現地が誇る至高のグルメに、ときめくお土産、ローカルの笑顔に出会う名所めぐりまで。その土地の歴史や人びとの暮らしにふれ、ともに時間を分かち合う、味わい深い南米のひとつに期待が膨らみます。



GOURMET
グルメ



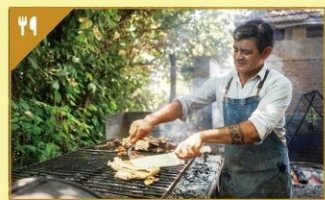
SOUVENIR
お土産



LANDMARK
名所



ENCOUNTERS
体験・交流



アルゼンチン流アサード

塩のみでじっくり塊肉を焼く伝統バーベキュー。大切な仲間とワインを片手に焼き上がり待つ、「豊かな時間」そのものを共有するのがアルゼンチン流の過ごし方です。

ブエノスアイレス



最古の伝統クラフトビール

バタゴニア発祥の老舗「Blest(プレスト)」は、多彩なクラフトビールと軽食を楽しめる人気のお店。開放的で活気あふれる空間には、地元の人びとや観光客が集まります。

ブエノスアイレス



とろける濃厚チーズピザ

19世紀後半のイタリア移民の歴史を経て、現在のブエノスアイレスはピザがソウルフード。生地が見えないほどたっぷり盛られたチーズの、圧倒的なボリュームが魅力です。

ブエノスアイレス



ロモサルタード

ペルーを代表する伝統的な牛肉と野菜の炒め物。隠し味に醤油を使ったコクのある味わいは、和食の味付けに親しんでいる方の味覚にもすんなりと溶け込みます。

カヤオ



ボーロ・デ・ファバ

トウモロコシの粉(ファバ)を使った、ブラジルで愛される家庭の味。しっとりした独特の食感と素朴でほのかな甘みは、コーヒーとの相性も抜群です。

リオデジャネイロ



フェジョアダー

黒豆と肉をじっくり煮込んだ伝統料理。マンジョッカ芋の揚げ物や、サクサクした粉「ファロファ」をご飯とワンプレートに盛り付け、豪快に味わうのがブラジル流です。

リオデジャネイロ



奇跡の天然石

世界でも限られた場所でしか採れない美しき青い石、ラピスラズリ。深く艶やかな藍色は「幸運を招く」とされ、旅の特別な記念に最適なジュエリーです。

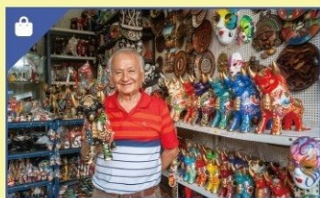
サンティアゴ



世界一の産地が培った銅製品

チリを代表する特産品「銅」。熟練の職人が叩き出したマグカップや器は、美しい光沢と優れた機能性を持ち、使い込むほどに味わい深い一品となります。

サンティアゴ



色彩にときめく

リマのミラフローレス地区にある、活気あふれる民芸品市場。色鮮やかなアルパカの毛織物や精巧な陶器など、現地の伝統とぬくもりが詰まった伝統の品々に出会えます。

カヤオ



世界の最果て記念品

世界最南端の街、ウシュアイアを訪れた証となる限定グッズの数々。最果ての地を表す記念の小物や列車のチケットは、誇らしい航海の記録を刻んでくれます。

ウシュアイア



ビニャ・デル・マール国立植物園の桜の木

広島県の被爆樹木の種が現地の火災に耐え抜き「奇跡の木」に。ピースボートが支援した植樹活動を通じ、国境を越えて平和を願う交流の花見の輪が今も広がっています。

バルパライソ



つながり続ける交流

チリで日本語を学ぶ若者たちや、日系の若者たちとグループに分かれて世界遺産の街歩きへ。毎回、ピースボートの船を心待ちに準備を重ね、迎えてくれます。

バルパライソ



セラロンの階段

チリ出身の芸術家が20年以上かけてつくり上げた、215段の鮮烈な階段。世界各國のタイルが敷き詰められた空間で、お気に入りの1枚を探すのも一興です。

リオデジャネイロ



カフェ・トルトーニ

1858年創業の南米最古のカフェ。大理石のテーブルや内装は博物館のようで、タンゴの巨匠ら文化人が我が家と呼び集った地下は、今も芸術の薫りが漂います。

ブエノスアイレス



コンコン砂丘

海岸線からすぐ目の前に立ち上がる、圧倒的なスケールを誇るコンコン砂丘。つぐられすぎ飾らないローカルな雰囲気魅力で、時には幻想的な霧に包まれます。

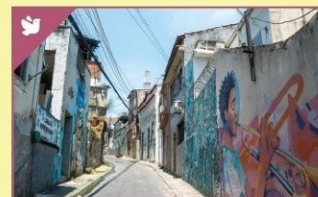
バルパライソ



ラルコ博物館

先コロンブス期の貴重な遺物を展示。モチェ文化の写実的な陶器や、インカ帝国の黄金の装飾品が一堂に会し、古代ペルーの失われた文明の謎と美しさを伝えます。

カヤオ



ファベラ

1897年に誕生したブラジル最古の共同体「ファベラ」を訪問。丘の上で力強く暮らす人びとのコーディネートのもと、現地から格差の歴史や背景を学びます。

リオデジャネイロ



アレナ・イ・ステラス

砂漠を切り開いた街で活動するNGO。過酷な環境下にあっても、演劇や音楽などの表現を通じて子どもたちの自立と未来を支える、地域コミュニティの姿にふれます。

カヤオ



マチュピチュ遺跡（ペルー）

South America World Heritage

今行きたい、南米の世界遺産

雲間に佇む天空の都市、孤島に立つ巨像、大自然と洗練された都市文化が調和する港町—古代帝国の栄華から美しい海岸線が魅せる景観、歴史の記憶まで。南米の多様な魅力を網羅した世界遺産の数々が、世界一周の旅路を彩ります。



①野生動物の宝庫として知られるバルデス半島（アルゼンチン） ②色彩豊かな街並みが旅情を誘うバルバイソ（チリ） ③④コロンボパードの丘とボン・ジ・アスカールから望む、壮大な街並みと美しい海岸線（ブラジル） ⑤⑥コロンボパードの丘とボン・ジ・アスカールから望む、壮大な街並みと美しい海岸線（アルゼンチン） ⑦⑧コロンボパードの丘とボン・ジ・アスカールから望む、壮大な街並みと美しい海岸線（ペルー） ⑨かつてアフリカからの奴隷上陸の地であったヴァロンゴ埠頭の考古遺跡と追悼のモニュメント（ブラジル） ⑩カルル遺跡は古代アンデス文明の都市遺跡で、巨大ピラミッドなどが立ち並んでいる（ペルー） ⑪約1000体のモアイ像が点在するイースター島（チリ） ⑫クスコの中心、アルマス広場に面して建つクスコ大聖堂（ペルー）

Hope in Africa

美しきアフリカで 出会う希望

光と風のコントラストによって刻々と表情を変える
ナミブ砂漠——。「ナミブ」とは先住民族の呼び名の
言葉で“なにもない広大な地”を意味しますが、文
字通り、遮るものもない果てなく続く砂の大地は、
まさにアフリカを体現する光景です。

しかし、アフリカの魅力はその雄大さだけではなく
ません。連綿と続く生の営み、歴史の転換点と
なった地、外部からの侵略や植民地支配という困
難な歴史を乗り越え、ありのままの多様性を尊び
未来を紡ぐ人びと——。人類誕生の地が育んだ歴史
や文化には、たくさんの“希望”が宿っています。
さあ、海を渡り、希望に満ちたアフリカの地へ。

好奇心の赴くままに アフリカを存分に味わう旅



雄大な景色が迎えるケープタウン

街を見守るのは、美しく雄大なテーブルマウンテン。航海の歴史を変えた喜望峰や、希少な草花が咲く国立公園など、自然や野生動物、文化や美食のすべてが詰まった魅力満載の国際都市へ。



彼方まで続く 野生の王国を訪ねて

野生動物たちが群れをなす保護区を訪れ、その息遣いを間近で感じるひととき。「ビッグファイブ」をはじめとする貴重でかけがえのない動物たちとの出会いは、アフリカを“肌で感じる”体験です。



想像を超えた砂漠の絶景の中へ

その神秘的な景観と生態系の特異性から、2013年にユネスコの世界自然遺産に登録されたナミブ砂漠。果てへと伸びる赤褐色の稜線を登り、類まれなる自然美を堪能する唯一無二の体験が楽しめます。



モノだけじゃない 心も届ける

大型客船の特性を活かし、現地のニーズに合わせた物資を届ける支援プロジェクトの実施も。ただ物を届けるのではなく、人びとと交流を深めながら、国境を越えた新しいつながりをつくります。



Special Interview

地球環境の未来を変える— 引き継がれたバトンを 次なる世代へ

ワンジラ・マータイ Wanjira Mathai

ワンガリ・マータイ財団理事長
世界資源研究所 (WRI) マネージング・ディレクター

世界的に有名なケニアの環境活動家。ノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイ教授の志を継ぐ基金の代表を務める。数々の国際的な環境団体でリーダーシップを発揮しながら次世代の育成に尽力。2019年、ピースボートクルーズに初乗船。

母から次世代へ受け継がれるレガシー

ワンガリ・マータイのノーベル平和賞受賞から20年という節目を迎え、母が遺した最大のレガシー（遺産）は、「人びとの意識に深い変化をもたらしたこと」だと確信しています。かつて環境活動は「彼女個人の取り組み」と捉えられていた時代もありました。しかし現在では、環境問題に対して強い意識と粘り強さを持った若い世代が確実に育っています。アフリカだけでなく世界中で、ビジネスや市民活動の現場を問わず、持続可能な社会を求める声はかつてないほど高まっています。私が携わる「ワンガリ・マータイ財団」のアクションでは、とくに子どもたちに希望や知識を届けています。母の原点が幼少期の豊かな体験にあったように、次の世代へ体験の場を提供し続けることで、より高い意識を持った未来のリーダーたちが次々と育ち始めています。

「地球の肺と腎臓」を守るコミュニティと農業の変革

現在、森林が世界中の私たちを支え、守るうえで、ますます重要な生態系のひとつであることが明らかになっています。森林は酸素の供給源である「地球の肺」であり、炭素を吸収する「地球の腎臓」でもある極めて重要な存在です。地球の未来を守るため、私たち世界資源研究所 (WRI) がグリーンベルト運動の中核として、ふたつの大きな変革に向き合っています。

1. コミュニティ主導型の森林経済

多くの地域において、森林の健全性が保たれているのは、周囲に暮らす人びとの関わりや働きかけによるものです。地域住民や先住民族の方々が、木材（丸太）の切り出しに頼るのではなく、木の実や薬用植物、資材の原料など「木を生かしたまま、毎年繰り返し収穫できる」持続可能なバリューチェーンから、正当な経済的恩恵を受けられる仕組みづくりを進めています。地域の人びとの暮らしの向上こそが、森林保全の最大の原動力となります。

2. 農業のあり方と食料廃棄の変革

世界の森林破壊の最大要因は「農業用地の拡大」です。例えば、アフリカでは全食料の約30～40%が廃棄される一方で、同等の人びとが飢餓に直面しています。この食料損失を食い止めることができれば、これ以上農地を森林へと拡大することなく、すべての人を十分に養うことが可能です。既存の豊かな森林の機能を維持することは、回復や再生を行うこと以上に極めて重要な意味を持ちます。

知性、身体、精神で体感する「人生を変える旅」

私は、体験すること以上に優れた学びの方法はないと考えます。体験型の学びは、考えや価値観を深く心に刻み、記憶に残る瞬間を生み出し、人びとが物事のつながりを実感し、自然の壮大さ、そして同時にその脆さを体感するための、最も影響力のある方法であり続けています。単なる知的理解にとどまらず、より精神的で、身体感覚に訴える深い理解へとつながるからです。この点においてピースボートでの旅は、航海に参加するだけで、人生を確実に変える力を持っています。「分かっているつもりだった」ことが、実際に現地にふれ、人と出会うことで、まったく違った形で心に届く。そんな、本質的な気づきが生まれる場所なのだと感じています。

グリーンベルト運動 Green Belt Movement

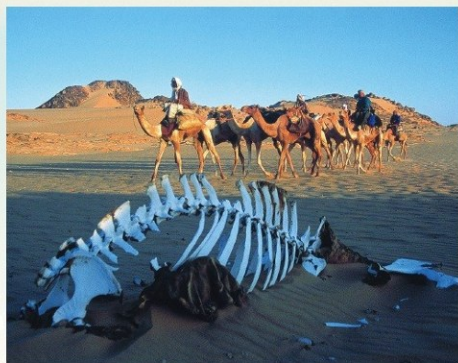
ワンジラ氏の母、ワンガリ・マータイ氏が1977年から始めた植林活動。これまでアフリカ大陸全土で5,500万本もの木を植え、植林には女性を中心に約10万人が参加しました。また、グリーンベルト運動の中に「MOTTAINAI（もったいない）チーム」を設け、ケニアで大量にゴミとなっているプラスチック袋（レジ袋）の削減事業を促進。「持続可能な開発、民主主義と平和に対する貢献」が評価され、2004年にノーベル平和賞を受賞しました。



出アフリカから400万年 人類の歩んだ大なる旅路に魅せられて

「彼らはどこから来たのだろうか」。1971年にアマゾン全域踏査隊長としてアマゾン川全域を下ったことをきっかけに南米に惚れ込んだ私は、当地に足しげく通い、アンデスやアマゾン、パタゴニアの先住民と暮らす中でそんな想いを抱くようになりました。彼らはそれぞれ違う場所に生きながらも顔立ちが似ていた。それに気づいたことがのちに、世界各地へと拡散した人類の足跡をたどる「グレートジャーニー」の着想へとつながりました。当初、彼らの人種的なルーツは、日本人と同じくシベリアかモンゴル、アジア圏のどこかではないかと考えていました。ところが調査を重ねるうちに、そもそも「人種」という考えには科学的根拠がないことが判明したのです。こうして、私の旅の目的は「人種」のルーツではなく「人類」の起源をたどることへと変わり、グレートジャーニーのゴールは人類発祥の地・アフリカに決まりました。

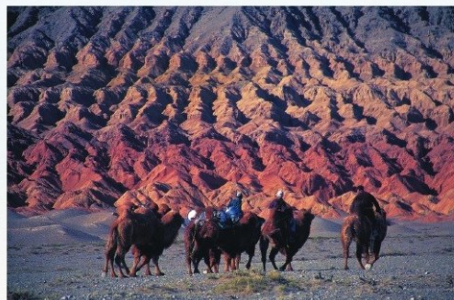
グレートジャーニーでは、アフリカで誕生した人類がユーラシア大陸を渡ってアメリカ大陸にまで拡散していった約5万3千キロの行程を、近代動力を使わずに脚力と腕力だけで進行しました。南米大陸最南端・パタゴニアの海に浮かぶ「ナバリノ島」から始まった足掛け10年に及ぶ旅路も、いよいよナイロビからゴール地点であるラエトリまでを残すだけとなった頃。野生の王国として知られる「ンゴロンゴロ保全地域」に入りました。園内は原則、車移動しかできないのですが、私はタンザニア政府の特別許可によって自由に自転車で行けることになりました。観光客の車に慣れた野生動物たちも、車から降りた人間は怖がります。自転車に乗った人間はどのようなか—ヌーの間を縫うように自転車で行くと、ガゼルやインパラ、シマウマも走っていました。彼らは得体の知れない者の出現に戸惑い、最初はやはり逃げたものの、それほどの距離は逃げずにこちらをじっと見つめ、私が近寄るとまた逃げる。キリンの集団は目の前で見るとやはり大きく、まるでスローモーション画像のようにゆっくり動くのに、歩幅が広いので移動速度は速い。野生動物とともに走る楽しさに結構はしゃいでしまい疲れたがたまってきたが、それでも飽きることはなかったですね。



関野吉晴

Sekino Yoshiharu

探検家・人類学者・外科医



ゴール地点であるサバンナに到着して頭に浮かんだのは、「やっとたどり着いた」という安堵の気持ちと、「人類はここから出発したのか」という感慨でした。私のグレートジャーニーは、東西冷戦、そして湾岸戦争が終わって再び中東がきな臭い状態になるまでの平和の隙間を縫って通り抜けてきた感があります。途中、米国の同時多発テロとその報復のアフガン侵襲の影響もありましたが、コースなどを変更してなんとか切り抜けられた。しかしもっと前、1980年代だった内戦の中米や、社会主義時代のソ連やモンゴルを自由に旅することなど夢のようなことでした。

ちなみに、ピースポートクルーズにゲスト乗船した際、南米大陸の南端に位置するアルゼンチンのウシュアイアへ寄港したときのこと。せっかくなので、グレートジャーニーの出発地、つまりアフリカを出た人類が最後にたどり着いたナバリノ島の近くを通る、ビーグル水道クルーズに参加しました。その船上で、あるルーマニア一家に「グレートジャーニーの人ですか？」と声を掛けられました。話を聞くと、彼らは世界中を旅する中でアフリカのタンザニアを訪れた際、私がグレートジャーニーで最後にたどり着いたゴール地点まで行ったそうで、そこに建つ記念碑の写真を見せてくれたのです。奇しくも私は、グレートジャーニーの出発点であるナバリノ島付近で私のことを知る人に出会い、グレートジャーニーのゴール地点の写真をみることになったのです。こうした夢のような不思議なめぐり合わせがあるのが、旅の面白さ。誰しもに世界とつながる可能性が開かれている—それを体現するピースポートとグレートジャーニーが交差した、忘れられないエピソードです。

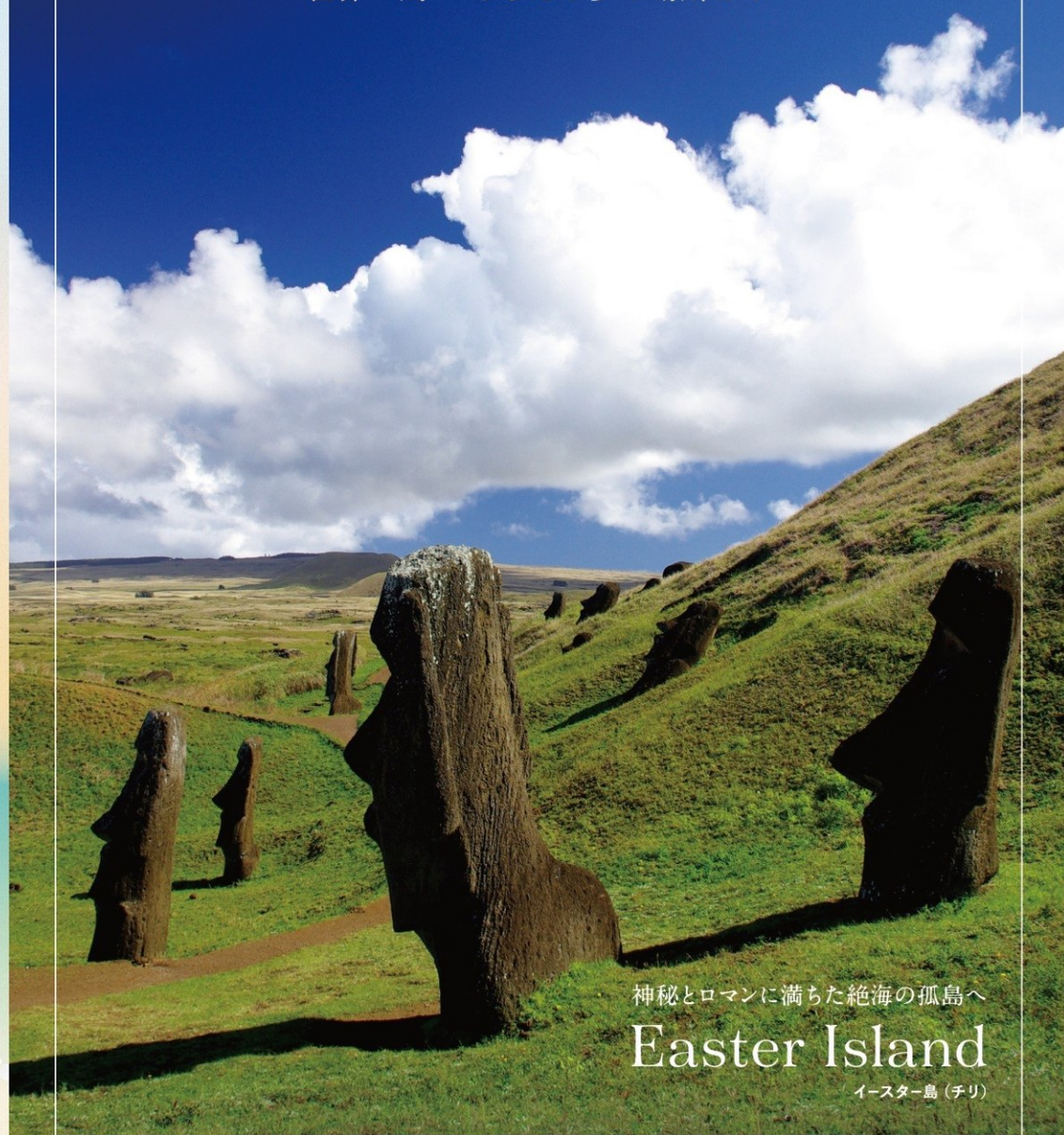
関野吉晴さんの
インタビュー全文
はこちら

Profile

南米への旅を重ね、現地で医療の必要性を感じ医師となる。1993年、アフリカに誕生した人類がアメリカ大陸にまで拡散していった約5万3千キロを、自らの脚力と腕力をたよりに進行する旅「グレートジャーニー」を南米最南端から出発し、足かけ10年の歳月をかけてゴールした。2004年、日本人のルーツをたどる「新グレートジャーニー」へと挑み、2011年6月にゴールした。1999年、植村直己冒険賞(兵庫県日高町主催)受賞。『グレートジャーニー1-8』『地球に生きる』『インカの末裔と暮らす』『幸福論』(共著)他、写真集・著書多数。

A Voyage to Experience the World ...

世界一周 × あなたの夢の場所は？



神秘とロマンに満ちた絶海の孤島へ

Easter Island

イースター島(チリ)

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



香港

心地良い喧騒に包まれて味わう本場の飲茶。アジア随一の国際都市で、躍動する街を体験



シンガポール

見るものすべてが刺激的なシンガポール。過去と未来の狭間を行き来する、魅惑の街歩き



モーリシャス ポートルイス

輝く海と豊かな自然が揃く、まるで「天国」のような光景。南の島で心癒される時間を



南アフリカ ポートエリザベス

アフリカの大地で感じる生き物たちの鼓動。美しい野生動物が住まう楽園をめざして



南アフリカ ケープタウン

景勝地・喜望峯をはじめとする稀有な自然と出会う。アフリカ大陸を代表する美しい街へ



ナミビア ウォルビスベイ

類まれなる砂の世界が連なるナミブの地で、地球の訪いだ果てしない物語を体験する



ブラジル リオデジャネイロ

ソウルフードもストリートフードも！南米ブラジルで楽しむ、胃袋を満たす「味な旅」



ウルグアイ モンテビデオ

重厚な歴史建築と、美しい海辺が織りなすリゾートの深み。小さいながらも懐の深い街へ



アルゼンチン ブエノスアイレス

色彩豊かな街並みが誘う魅惑のひとつ。情熱と気品が交差するブエノスアイレスへ



アルゼンチン プエルトマドリン

向かうは世界遺産・バルデス半島。パタゴニアの海辺で生きる野生動物たちとの出会い



アルゼンチン ウシュアイア

澄み切った風に抱かれて深呼吸を―「世界の果て」を冠するロマンあふれる港町



南極遊覧

ここでしか出逢えない絶景を求めて。雪と氷に覆われた、極限の地・南極へ



チリ プンタアレナス

新しい世界を開いた航海と、この地を守り続けた足跡。チリ南端の街で歴史をたどる旅を



チリ バルパライソ

街全体が世界遺産！丘に沿って並ぶカラフルな情景に心躍る、魅惑のアートトリップ



ペルー カヤオ

卓越した石造技術と雄大な自然が迎えるマチュピチュで、アンデス文明の叡智にふれる



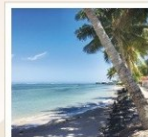
チリ イースター島

外界から隔絶された島で待つモアイ像との出逢い。紺碧の南太平洋を渡る道かなる旅路



タヒチ パペーテ

魅惑のポリネシア文化とフランスの薫りが温存する南洋の楽園。のどを潤す最高の一杯を



サモア アピア

青に染まる海と白砂のビーチが手招く。島嶼国家サモアで過ごす癒しのひととき



OPTIONAL TOUR 旅をより充実したものに ― オプションツアーでもっと楽しむ！

「旅」という要素においては寄港地での体験が欠かせません。ピースボートクルーズでは、その土地ならではの体験や出会いが楽しめるオプションツアーを豊富にご用意しています。オプションツアーなら、交通手配や食事の手配をする手間もなく、ツアーには通訳スタッフが同行するので言語面でも安心です。申し込みを済ませたら、あとは当日を楽しむに待つのみです！

オプションツアーの多彩な魅力をご紹介します！



広がる旅の楽しみ

ショート観光では、短い時間で見どころを効率よくめぐります。ツアーの後は自由にお過ごしいただけるので、自分らしい旅も楽しみたい方におすすめです。

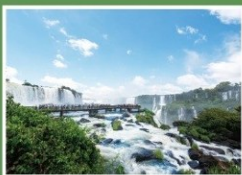


多彩なツアー

訪れる国や地域の観光名所をめぐる定番のツアーをはじめ、歴史や文化にふれたり、現地の人びとと交流したりするツアーなど、多彩なプランをご用意しています。

手軽に気軽に、どこへでも

船を一時離れ、空路や陸路で複数の都市をめぐる「オーバーランドツアー」。隣接する国や地域、ときには大陸間を移動してさまざまな見どころを一度に楽しめます。



旅先で味わう食

1日かけてめぐるツアーでは、その土地ならではの食事もお楽しみいただけます。現地の空気を感ぜながら味わう美食は、旅の思い出をより豊かに彩ります。



ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンドー・ボートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアーを含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時的に下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースボートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。
- ご自宅から集合・解散地等寄港地までの交通費は含まれません。
- イースター島では原則自由行動はできません。後日発表のオプションツアーにご参加ください。
- 本船の船務には、南極大陸の上陸は含まれません。南極大陸の上陸は後日案内するオーバーランドツアーにご参加ください。

パシフィック・ワールド号でゆくピースボート地球一周の船旅 2029年12月 Voyage134

横浜発着109日間 2029.12.13（木）～2030.3.31（日）

日程		寄港地		
12.13	木	出航 午後	横浜	
12.18	火	入港 朝 出港 深夜	香港	
12.23	日	入港 朝 出港 深夜	シンガポール	
1.2	水	入港 朝 出港 夜	ポートルイス	モーリシャス
1.8	火	入港 早朝	ポートエリザベス	南アフリカ
1.9	水	出港 夜		
1.11	金	入港 朝 出港 深夜	ケープタウン	南アフリカ
1.14	月	入港 朝 出港 夜	ウォルビスベイ	ナミビア
1.23	水	入港 午前 出港 夜	リオデジャネイロ	ブラジル
1.27	日	入港 朝 出港 夜	モンテビデオ	ウルグアイ
1.28	月	入港 午前	ブエノスアイレス	アルゼンチン
1.29	火	出港 午後		
2.1	金	入港 朝 出港 夜	ブエルトマドリン	アルゼンチン
2.4	月	入港 午前 出港 夜	ウシュアイア	アルゼンチン
南極遊覧				
2.12	火	入港 朝 出港 夜	プンタアレナス	チリ
2.17	日	入港 朝 出港 夜	バルパライソ	チリ
2.21	木	入港 朝	カヤオ	ペルー
2.22	金	停泊		
2.23	土	停泊		
2.24	日	出港 夜		
3.3	日	歸泊 朝 発 夜	イースター島	チリ
3.13	水	入港 朝 出港 深夜	パペーテ	タヒチ
3.19	火	入港 朝 出港 夜	アピア	サモア
3.31	日	帰港 午前	横浜	

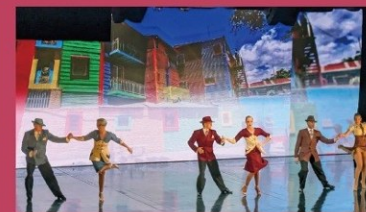
※訪問地や航路は、天候や海の状態による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00～	4:00～	6:00～	8:00～	12:00～	18:00～	23:00～
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

Why Travel by Cruise Ship?

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

クルーズ中は、南半球をめぐる航路や寄港地にちなんだ講座、パフォーマンスステージ、ワークショップなど、多彩なイベントが開催されます。洋上ゲストやミュージシャンによるステージでは、彼らが奏でる音楽や踊りを通して、その土地の文化や魅力にふれることができ、寄港地への理解や旅への期待も深まります。寄港前からその土地を身近に感じられるのも、ピースボートクルーズならではの楽しみです。



多様なニーズに合わせて選べる船室の数々



Pair Owner's Suite ペアオーナーズスイート



Pair Premium Suite ペアプレミアムスイート

Pair Junior Suite ペアジュニアスイート



ペアバルコニーⅠ



セミシングルアウトサイドⅠ



シングルスタンダードインサイドⅡ



フレンドリースタンダードインサイドⅡ

Why Travel with PEACE BOAT?

「世界一周」という特別な旅が、サステナブルなものであるために

40年以上にわたり船旅を企画し、クルーズを成功させてきたピースボートクルーズは、これまでに培った経験を生かし、よりエンカル(倫理的)でサステナブルな旅を追求しています。地球環境への配慮はもちろん、寄港地で私たちが迎えてくれる国々や人びとの相互理解を深め、旅を通じてともに持続可能な未来を築くことをめざしています。



洋上レストランで、持続可能な水産物を提供

持続可能な漁業で漁獲され適切に管理されたMSC認証の水産物、認証済み養殖場から供給されたASC認証の水産物を積極的に取り入れ、持続可能な水産物への取り組みを選択することを心がけています。

ノーベル平和センターと提携した常設展を開催

2025年4月、ピースボートとノルウェーのノーベル平和センターの提携により、ノーベル平和賞授賞式に合わせて更新される「ノーベル平和賞洋上特別展」がバシフィック・ワールド号に常設されています。



SDGs公式キャンペーン船として認定

国連とパートナーシップを結び、2015年に決議された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定され、船内や訪れる国々でSDGsに関連する取り組みを実施しています。



ベッドマットレス再資源化の取り組み

交換で不要になった船室のベッドマットレスは、廃棄物の破砕・解体、資源選別の技術に強みをもつ「(株)エコネコル」の技術によって100%リサイクル。限りある資源を最大限に活用しています。



交流を続けながら、世界各地へ支援物資を

たくさんの物を運べるという大型客船の特性を活かし、寄港地のニーズに合わせて支援物資を届けています。届ける物資は楽器や文房具、衣料品、スポーツ用品、衛生用品、車など、多岐にわたります。



各界の専門家が地球一周の旅をナビゲート

遠隔地への旅を通して知識を深め、現実的な社会問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなり、それらを「自分ごと」として捉える視点や思考を育みます。